

## 山口県教育委員会

【総人口】1,290,292人

【自治体 関連URL】[https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/186/#ka\\_headline\\_3](https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/186/#ka_headline_3)

【担当部局】乳幼児の育ちと学び支援センター  
（公立幼稚園、認定ども園担当）

【主な関係部局】教育庁義務教育課（公立小学校担当）  
健康福祉部こども・子育て応援局こども政策課  
（保育所、認定ども園担当）  
総務部学事文書課  
（私立幼稚園、認定ども園担当）

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数	1	24	130	85	180	15	20	2	293	1
園児・ 児童数	75	392	11116	5294	16002	1353	2247	773	61162	0

事業実施地域・  
協力園校

【実施地域】

柳井市、周南市、下関市

【協力園校】

幼：私立保育所1園、公立幼稚園1園、私立幼稚園1園

小：公立小学校3校

架け橋期の  
カリキュラム開発  
会議

【会議委員人数】

16名

【開催数】

3回

【委員属性】

学識経験者2名、私立保育所長1名、公立幼稚園長1名、私立認定ども園長1名、公立小学校長1名、地域住民代表者1名、市町保育主管課保幼小連携担当者1名、市町教育委員会保幼小連携担当者1名、乳幼児の育ちと学び支援センター3名、教育庁義務教育課1名、教育庁特別支援教育推進室1名、教育庁地域連携教育推進課1名、健康福祉部こども・子育て応援局こども政策課1名、総務部学事文書課1名

架け橋期の  
コーディネー  
ター等

【配置人数】

3名

【経歴】

- ・現保育者養成大学准教授
- ・現私立保育所長
- ・元公立小学校長、現私立幼稚園長

架け橋期の  
カリキュラム

【開発主体】

- 柳井市（1私立保育所、1公立小学校）
- 周南市（1私立幼稚園、1公立小学校）
- 下関市（1公立幼稚園、1公立小学校）

## カリキュラム開発会議

### 1 架け橋期のカリキュラムに関する議論

幼児教育・保育及び小学校教育、地域の関係者等を委員とし、架け橋期のカリキュラム開発の方向性や架け橋期のカリキュラムの「共通の視点例」等について協議を行った。そこでは、「カリキュラムは、子どもの育ちと学びの姿を記していくものである。」「資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）は示すとよい。」「柔軟性をもたせ、それぞれの市町が特性を生かせる形がよい。」等の議論がなされた。その結果、架け橋期のカリキュラム開発会議で決定した山口県の架け橋期のカリキュラム開発の方向性及び「共通の視点例」は、以下の通りである。

#### 【山口県の架け橋期のカリキュラム開発の方向性】

- 地域、園・小学校が創意工夫しながら、それぞれの特色を生かして架け橋期のカリキュラムの作成ができるようにする。
- 山口県における「共通の視点例」及び実践事例を示すことにより、各園・小学校、市町が架け橋期のカリキュラムを作成する上での手掛かりとできるようにする。

#### 【山口県の架け橋期のカリキュラムの「共通の視点例」】

- 子どもたちの現状
- めざす子ども像（園・小学校・地域・家庭みんなで考える子ども像）
- 育みたい力（育みたい資質・能力、重点を置きたい10の姿、ねらい等）
- 育ちと学びのつながり（園での活動と小学校の学習のつながり）
- 人のつながり
  - ・子ども同士のつながり（交流活動等）
  - ・先生同士のつながり（合同会議・研修会等）
  - ・家庭とのつながり
  - ・地域とのつながり
- 指導上の配慮事項（「つながり」に関するもの）
  - ・先生の関わり
  - ・環境の構成

また、令和4年度及び令和5年度の協力園・協力校が作成・実践した架け橋期のカリキュラムをもとに、山口県の架け橋期のカリキュラム開発の方向性及び「共通の視点例」を検証した結果、開発の方向性や共通の視点例の継続が決定した。

### 2 会議設置による成果と課題

成果として、山口県の架け橋期のカリキュラムの方向性の決定、架け橋期のカリキュラムの作成・実践・検証・改善におけるポイントの協議、架け橋期のカリキュラム実施に必要な研修や市町への支援についての検討等が挙げられる。今後は、このポイントを県内に広げることが必要不可欠であるため、効果的に広げることのできる取組を行っていきたい。また、調査研究事業が終了する令和7年度以降の保幼小連携に関する取組についても架け橋期のカリキュラム開発会議の中で検討していく必要がある。

## 架け橋期のカリキュラム

### 1 開発プロセス

山口県の架け橋期のカリキュラム開発の方向性及び「共通の視点例」をもとに、令和5年度は、県内で3つの協力地域・協力園・協力校が主体となってカリキュラムを開発した。それぞれの「開発プロセス」「柱にした共通の視点」「相互理解を深める方法」等は以下の通りである。

市	開発プロセス	柱にした共通の視点	相互理解を深める方法（主なもの）	相互理解に当たってのポイント・課題	課題の解決方法
柳井市	市の枠となるものを、協力園・協力校・市教育委員会・保育主管課が協働して開発	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）	互いの保育・授業参観や小学校の教員による保育体験	指導方法の相互理解を図り、自身の保育・教育に取り入れることが大切である。	子どもの様子とともに、保育者、教員の援助や支援の仕方を知ることのできる場を設けた。
周南市	協力園と協力校が協働して開発	「めざす子ども像」「育みたい力」「育ちと学びのつながり」「指導上の配慮事項」	「めざす子ども像」や「育みたい力」を協議する際に園・小学校それぞれの取組を紹介	互いがどのような保育・教育活動を行っているかを知ることが重要であるが、理解するのが難しい面がある。	写真や映像、文字資料等を用いて実践を紹介することで、相互理解を図った。
下関市	協力園と協力校が協働して開発したものを小学校区で協議	「人のつながり」「学びのつながり」	年に2回、事例発表や授業参観をもとにした研修会を開催	小学校区に複数の園がある場合、顔を合わせて意見交流することが大切であるが、集まるのが難しい。	小学校が発信することで、集まりやすくなった。

### 2 架け橋期のカリキュラムの概要

市町	工夫した点やポイント
柳井市	手元に置いていつでも見ることができるよう、1枚にカラフルにまとめた。細かく内容を定めると難しさが出るので、最低限の内容を記した。
周南市	「育みたい力」の重点を設定した。「学び方のつながり」に関する支援が一番大切だと考え、2年間を貫く教師の支援の在り方を記した。
下関市	「人のつながり」「学びのつながり」の2つの視点で整理した。交流を中心にして、つながりがよく見えるようにした。

アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムは、それぞれが別々に作成していたケースが多かったが、架け橋期のカリキュラムは、園・小学校、市町教育委員会・保育主管課等の関係者が協働して作成することを大切にしている。

### 3 架け橋期のカリキュラムの実践

#### (1) 架け橋期のカリキュラム（令和4年度協力園・協力校作成・実践カリキュラム）のPDCAサイクル

- ① 実践…定期的にカリキュラムを見て、ねらいや環境の工夫、教師の支援等を確認しながら教育活動を行った。
- ② 課題…内容に関しては役に立っているものになっているが、教師の思いや考えを言葉に適切に表したり理解したりすることが難しい。
- ③ 改善…カリキュラムに用いる言葉を保幼小で検討した。

#### (2) 指導の変化及び子どもの変化（具体的な事例）

- ① 保幼…生き生きと自分の考えを表現する小学生の姿から、園でも自分の考えを伝える経験をする大切さを感じ、保育に取り入れるようになった。それぞれの子どもなりに、自分の考えを伝えようとする姿が見られるようになってきた。
- ② 小…授業において、子どもに園での経験を尋ねるようになった。すると、子どもが、活動内容や方法を自ら考えたり決めたりする姿が見られるようになった。

## 次年度への展望

### 成果と課題、及び展望

1年目、2年目を通しての主な成果は以下の通りである。

- ・先生方の架け橋期のカリキュラム作成の手掛かりとなる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の理解度を高めることができたこと
- ・山口県の架け橋期のカリキュラム開発の方向性を広く県内に周知することができたこと
- ・市町への保幼小連携研修会への講師派遣等の支援を中心として、山口県と市町との連携を強化することができたこと

一方で、各市町の園・小学校の架け橋期のカリキュラムの作成・実践・検証・改善におけるフェーズは、市町により差がある状況であり、十分に進んでいるとはいえない。

そこで、事業最終年度である令和6年度は、各市町の園・学校のカリキュラム作成・実践・検証・改善の推進をめざすこととする。各市町の園・小学校が架け橋期のカリキュラムの作成・実践・検証・改善に取り組むことができるように、主に以下のことに取り組む。

#### 1 公開保育・授業をメインとした保幼小連携研修会の実施

小学校1年生の授業及び保幼小の交流活動の公開、事例発表等をもとに協議する研修会を実施することにより、参加者が架け橋期のカリキュラムの実践の具体的な方法について学ぶことができるようにする。その際、小学校の生活科だけでなく、様々な教科の授業単元における保幼小の接続の具体について考えることができるように、授業及び交流活動の内容や協議題等を工夫する。

#### 2 保幼小連携に係る実践事例を掲載した資料作成

保幼小連携に係る実践事例を掲載した資料を作成し、山口県内の全園・小学校に配付することで、それぞれの園・小学校が地域及び子どもたちの実態等に応じたカリキュラムの作成・実践・検証・改善を進めることができるようにする。概要は右の表の通りである。

#### 3 架け橋期のカリキュラムを園と小学校が協働して作成するための基盤となる各市町の教育委員会と保育主管課の連携を図る担当者研修会の実施

令和5年度まで「市町保幼小連携担当指導主事等研修会」としていた研修会の名称を「市町保幼小連携担当者研修会」に変更し、全市町の教育委員会と保育主管課の担当者どちらもが参加し、各市町における架け橋期のカリキュラム作成・実践・検証・改善に関する取組を協働して考える場を設ける。そうすることで、市町教育委員会と保育主管課との連携を深め、施設類型や学校種関係なく、すべての園・小学校が架け橋期のカリキュラムを作成・実践・検証・改善することができるようにする。

項目	内容
資料の題名	つながる子どもの育ちと学び「はじめのいっぽ」～保幼小連携、これで充実させよう～（仮）
コンセプトイメージ	カリキュラム開発・実施・改善の手引きリーフレット「はじめのいっぽ」の具体版、事例集「手に取りやすい、読みやすい資料に」
媒体	冊子
構成	つながる子どもの育ちと学び 保幼小連携の必要性「架け橋とは」
	STEP1 先生がつながる（体制づくり等に関する事例）
	STEP2 子どもがつながる事例（交流等の事例）
	STEP3 育ちと学びがつながる（話し合いの事例）
	架け橋期のカリキュラム（長研生作成カリキュラム特徴も紹介）
	架け橋期のカリキュラムをもとにした実践事例

